

1.

親愛なる担当者さまへ

僕とあなたは、まるで水底の灌木の茂みを伐り開くような、音楽の洪水の中をあさく深く掘り起こすような、複雑であり簡潔であるインターネットの谷間を行き来するような、そんな2人であろう。

すがるようにそう信じ、僕はこの『Release』があなたに届くべく、筆を取ろうと思う。

さて、あらゆる音楽の活動にたいし、『プレスをリリースする』という理想的な妥当性は、とうてい否定しきれものではないことは、あなたがたにおいてもご承知であると考えたい。この『プレスリリースの送付』はつまり、記事の掲載の協力を期待してのものであり、もっとも深く、音楽を的確に理解し、また、そうすることを必要としている職としてのあなたがたは、その期待を受け止めるべく態度を、持続しているだろうと願う。

さて、情報解禁は本日。しかしその解禁は18時からであることは、鋭く指摘しておきたい。

2.

この1.2年もっともしばしば用いられてきた『ミニシンバム』という、たとえばナショナル・コンセンサスという言葉でも表して良いだろうプロジェクトの、新しい側面『RELEASE』。これらについて、スケジュールシートとSoundcloudのデモ視聴リンクが「一般公開NGである規定」については、だれの目にも妥当であると思う。だからといったわけではないが、画像等全ては使用可能とした。おそらくはこうした些細な気遣いが、このリリースを掲載へと導く、煤煙と霧の中を一縷伸びゆく光であろうと、考えている。

リンク

3.

うんこミュージアムという、真の意味での「安寧なディストピア」がある。僕たちはそれらに対してテーマソングを書き下ろした。そして文化庁メディア芸術祭でのMV選出では、しばしば僕らの希望や恐れが裸にむきだされて見出されたような感覚を得たし、渋谷ヒカリエでの展示などはいまなお自分たちの内部に息づく。

そんな話題の多かったFrascoが、新曲「Press」をリリースするというのが、おのずから実感と活きた意味づけをもって体験されるのではないだろうか。

僕らは「プレスリリース」をテーマとした楽曲において、音楽界への道徳的な批判を行っているのではない。それらを超えたところの、運動部で使われるような掛け声を盛り込むなど大胆な曲展開の存在そのものにかかわった、トリッキーでありながらキャッチーなポップソングを表現し、そのポップソングに、逆に外側から照明をあてられることによって、あらためてフラスコの現実の実態のことを思い起こして欲しいのである。

この「プレスリリース」は、その照明のスイッチであり、なくてはならない物理配線の、まるで突端のような存在であると、果たしてあなたの目には映っているだろうか。

4.

僕らとあなたは、まるで水底の灌木であり、インターネットの谷間を伐り開き進み続ける仲間である。

僕らが『採集』をあきらめ、茂ったインターネット、あるいは茂った音楽界に踵を返し、肩を組みあって細道を逆流して行く未来を想像すると、その組み合った肩がすくむ感覚が、まるで現実かのように湧き上がる。

何卒、そんな未来への祈りに身をまかせず、『僕らには何一つ手に入らないだろう』などという死者の骨にすがるとような感慨は捨てて欲しい。

なぜなら、  
この『プレスリリース』を掲載するだけで、  
その感慨は僕たちの身体の中から、  
欠伸とともに去っていくのだから。